

DX とデザインシンキングを学び、実践する意義とは？

株式会社 Co-Lab 共同代表 伊藤 史紀

近年、急激に進行する社会・テクノロジーの変化に対し、地方自治体においても対応が求められています。この数年で注目度が高まった自治体 DX（デジタルトランスフォーメーション）は、単にシステムやツールを導入するだけではなく、業務フローそのものを見直し、住民や利用者の視点で“より良い体験”を創り出すことが肝要です。紙や対面中心の業務をただ電子化するだけでは真の変革には至らず、従来の慣習を疑い、住民サービスや職員の働き方を抜本的に変えていく大胆さが求められます。

本研修では、まず DX の本質や BPR（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）の重要性を学びながら、自分たちの業務プロセスを客観的に見直すきっかけをつくります。そのうえで、デザインシンキングのプロセスを用いて利用者の生の声や感情、ニーズに寄り添い、新しい発想を生み出すアプローチを体験的に習得します。論理的思考だけでは捉えきれない潜在的な課題を発見し、プロトタイプを作成やテストを通じてアイデアを形にするプロセスを体験することで、自治体業務にも応用可能な実践力を身につけることを目指します。

さらに、この研修では参加される方々の「対話」や「議論」を大切にしながら進めます。講師が提供する知識や手法を参考に、現場でどのように実践していくかを共に考えるのが特徴です。DX 推進に際しては、人員や予算、組織風土など、現実的な課題とどう向き合うかが常に問われます。住民も多様であり、デジタルデバイドや IT リテラシーなどの視点からも検討を進める必要があります。

そのような背景から、受講者同士が実際の悩みや疑問点を共有し合い、意見交換を通じて“解決の糸口”を探る場を大切にしています。業務内容や組織の状況はそれぞれ異なりますが、他部署や他自治体の事例をヒントに、自分たちの状況に合った最適解を模索できるようサポートします。

また、研修の最後には、学んだことをすぐに実務へ展開できるようなアクションプランを考案します。日々の業務の中で「明日から何ができるか？」という具体的な行動指針に落とし込むことで、研修後も実践しやすい環境づくりをめざします。

「DX&デザインシンキング」一日研修は、楽しくも有意義な時間を通じて、参加者それぞれが自治体の未来を切り開くきっかけとなることを目指しています。新たな視点で住民サービスを再設計し、組織全体に変革を波及させるには、職員一人ひとりの一歩が欠かせま

せん。ぜひこの研修にご参加いただき、対話と学びを通じて実践へつなげる力を養ってください。



製造系ベンチャー企業で、生産管理や営業、人財開発マネージャーなどを経験。旅館・ホテルの再生案件等を手掛ける星野リゾートへ転職し、支配人などを経験する。2010年に独立、地方自治体や民間企業の人財開発や組織開発に携わる。

行政向けには、総合計画の作成や評価プロセス支援。人材育成方針策定や採用・育成上の課題解決プロジェクトなども支援。

研修講師として、評価者研修や新人指導員研修、論理的思考や課題解決力向上など幅広いテーマでの研修を担当している。得意分野は、思考法に関するものや人材育成、そして課題解決に関するテーマ。